



能登町長  
持木 一茂

平成25年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様には健やかに新春をお迎えのことと存じます。本年も皆様と共に、能登町の人と暮らしが輝きを増すことができますよう努めてまいりたいと思います。

さて、昨年の能登町を総括して申しますと「飛躍に向けて駆け出した年」と言えようかと思えます。

能登の里山里海に生きる私たちがいただいた「世界農業遺産」という榮譽を弾みに、多くの方に能登町へ来ていただく取り組みとして、人材育成や研究調査などさまざまな取り組みが本格的にスタートしています。この取り組みに関連付けたいこととして、1月の千葉県流山市、11月の宮崎県小林市との姉妹都市提携が挙げられます。人や物、文化など多角的な交流を行っていくことは、「能登の

里山里海」に触れていただくことにつながります。相互理解を深めながら、私たちのふるさとを守り育てていかなければなりません。スポーツ界では大相撲、能登町出身の丹蔵隆浩関が十両に昇進しました。これまでけがに苦しんできましたが、見事関取の座をつかんでくれました。

能登高校では、ソフトテニス部がインターハイ県大会で男子優勝、女子が3位と劇的な「古豪復活」を果たし、アーチェリー男子も県大会優勝と、小規模校ながら2本の優勝旗を持ち帰る快挙を成し遂げました。

このほか町内数多くあるスポーツにおいても、成果を収めた方は一様に、更なる飛躍を誓っていたことが印象的でありました。

教育、福祉、防災などのさまざまな分野におきましても、大勢の方が自主的に、目的をもって、地域のため、町のために協力ご活躍いただきました。町が本格的に住民の力で回り始めたものと、誠に心強く感じているところです。

未来への希望と展望が広がるところある能登町ですが、世界の大勢



能登町議会議長  
宮田 勝三

あけましておめでとございます。町民の皆様には健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日ごろから議会活動に温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成24年能登町議会第4回定例会において、議員の皆様のご推挙を賜り議長に就任させていただきました。町民の皆様と共に微力ながらも町政発展のため頑張りたいと思います。

昨年を振り返ってみますと、年末に漢字能力検定協会が発表した「金」の漢字に示されるように、ロンドン五輪での日本人の活躍、山中教授のノーベル賞受賞、東京スカイツリーの開業など多くの金字塔が打ち立てられたことが挙げられようかと思えます。そして29年ぶりに行われた師走の衆議院選挙が大きな関心事であったかと思えます。



印象的だったのは、山中教授の座右の銘の一つ「Vision (ビジョン) & Hard Work (ハードワーク)」という言葉です。目的をはっきり持って、それに向かって懸命に努力するということがかと思えますが、私は日本人にはハードワークに労を惜しまない誇るべき精神があると思います。そこに明確なビジョンが加われば国はもっと良くなる、町も良くなると思えます。

議会活動としては、町民の皆様への安全・安心で住みよい町づくりというビジョン実現のため、新町になってから初となる被災地の復興状況およびその後の取り組みを参考とすべく全議員による視察研修の実施、今後の能登町の行政組織のあり方を検討する「庁舎等の在り方検討特別委員会」を設置し討論を重ねるなどさまざまな取り組みがなされているところです。

は流動的で、わが国も震災復興、エネルギー問題、財政問題など、さまざまな問題を抱えております。世界に信頼され続ける日本であるためにも、かたくなに地域を守っていくことが私たちの役割であります。

昨夏は渇水により、一部地域で断水の恐れが出ましたが、企業や各家庭のご理解をいただいたお陰をもちまして、危機を乗り切ることができました。迷惑を承知で節水をお願いをしたところ、目に見えてその効果が表れましたことは感謝の念に堪えず、能登の人は情に厚いことを実証していただいたとも言えようかと思えます。

このような能登の心を持った皆様と共に、飛躍に向けて駆け出した能登町をさらに加速させていくべく、あらゆる可能性を模索していきたいと思えます。

最後に、皆さんにとりまして、本年が健康で幸多き年となりますよう心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶いたします。

地方議会は日まぐるしく変わっていく社会情勢に応じたスピード感のある対応をしていくことが求められています。ビジョン実現のためには町民の皆様のご意見やご提言が必要であり、皆様と町・議会が協働してまちづくりを進めていくことができますよう、我々議会も努力してまいります。

結びに、町民の皆様の深いご理解とご協力をお願いし、皆様にとつて幸多き一年となりますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶いたします。

# 健賀新年



## 国重田の神様保存会

執行者：吉村安弘さん

ユネスコ無形文化遺産登録を機に、平成20年から地域であえのこを伝承する国重地区。田の神様保存会の吉村安弘会長宅では、金沢大学の学生10人が神事の作法や料理などを記録に残した。

【左】より代となる松の木の根元にサカキを立て、くわをを入れて田の神様を迎える吉村さん。

【下】保存会員らがそれぞれ収穫した米も一緒に供えられる。



## 合鹿庵(柳田植)

執行者：中正道さん

植物公園合鹿庵では、あえのこの保全伝承のため20年以上前から実演を行っている。執行する中正道さん(上町)は、両親から受け継いだ料理や作法の説明を入れながら神事を進める。今年は地元柳田小学校の6年生が見学。中さんの説明に真剣に耳を傾けていた。

【上左】くわを3回入れて稲株を起し、田の神様をサカキに宿す。

【上中】「段差がございます。お気を付けてください」。目の不自由な田の上様をゆっくりと案内する。

【上右】中家では、お風呂で背中を流さず声かけのみ。

【左】収穫への感謝を述べた後、料理を一品一品説明。一般的な小豆飯ではなく白米を山盛りにする。

— PhotoReport 12/5 —

# あえのこと

国指定無形民俗文化財 / ユネスコ無形文化遺産



## 赤田家(嘗)

執行者：赤田一男さん



【上】「長い間で苦労さまでした。どうぞ御幣にお移りください」。自宅近くの田んぼから田の神様を迎える赤田さん夫妻。

【右】お風呂では、丁寧に背中を流す。

【中】赤田家は料理のふたを取らずにもてなす。ご飯は黒米を使う。

【左】御幣が掛けられているものは、米俵を作った時に用いた道具。